



Rulebook 2026-2027



JAPAN CAR AUDIO COMPETITION ASSOCIATION

目次

1	European Mobile Media Association(EMMA)にようこそ！	1
1.1	歴史と序文	1
1.2	EMMA の綱領	1
1.3	コンペティションの課題	1
1.4	コンペティションの精神	1
2	EMMA カテゴリとクラス	2
	EMMA C(Challenge)	2
	EMMA E(Entry)	2
	EMMA S(Skilled)	2
	EMMA M(Master)	3
	EMMA X(Expert)	3
3	EMMA ルール インストールのクオリティ	3
3.1	インストールのルール:E(Entry)カテゴリ	3
3.2	インストールのルール:S(Skilled)カテゴリ	4
3.3	インストールのルール:M(Master)カテゴリ	6
3.4	インストールのルール:X(Expert)カテゴリ	9
4	EMMA ルール サウンドクオリティ	12
4.1	審査前のチェック	12
4.2	サウンドステージ	13
4.3	イメージング特性	14
4.4	音色の正確性	14
4.5	スペクトルバランス	15
4.6	リスニングの満足感	16
4.7	システムのノイズ	16
4.8	システムの操作性	16
4.9	視界制限	17
5	全般的なコンペティションのルールと手順	18
5.1	全般	18
5.2	登録	18
5.3	エントリー条件	19
5.4	コンペティション当日について	20
5.5	イベントの種類	21
5.6	エチケット	22
5.7	抗議について	23
5.8	抗議の要求手順	24
5.9	インストールクオリティ審査中の手順とルール	24
5.10	音楽の再生	25
5.11	価格制限クラス	26
5.12	カテゴリ/クラスの変更	27
5.13	SQ 審査について	27
5.14	シングルシート審査	28
5.15	サウンドクオリティ審査中の手順とルール	28
6	審査マトリックス	29

1.1 歴史と序文

EMMA は、欧州におけるサウンドクオリティ・コンペティションにおいて、公平な競技環境を提供するとともに、欧州大陸全域で用いられていた様々なルールを統一することを目的として設立された団体です。カーオーディオコンペティションは米国に起源を持ち、当初は米国で設立された団体がサウンドクオリティイベントにおける競技マニュアルを策定していました。EMMA インターナショナルは、世界各国の EMMA カーオーディオ協会を統括する組織であり、毎年開催される国際的なヘッドジャッジ研修の実施、ルールブックの標準化、コンペティション関連メディアの制作などを担っています。また、EMMA インターナショナルのウェブサイトでは、サウンドクオリティコンペティションに関する重要な情報が提供されています。本書は冊子版の EMMA ルールブックであり、ユーロファイナルおよび各国内団体における近年の結果をもとに、コンペティション参加者が理解しやすく、かつ遵守しやすい公平なルールとして編纂されたものです。さらに、本ルールがカーオーディオ業界の発展に寄与してきた諸団体の成果の一つとして広く認められることを、EMMA は心より願っています。

1.2 EMMA の綱領

European Mobile Media Association (EMMA) の使命は、世界各国のカーオーディオ団体から構成される独立したネットワークに対し、統一されたガイドラインを提供することにあります。また、コンペティションを円滑に開催するためのルールおよびレギュレーションの策定も担っています。EMMA の目標は、すべての加盟国において共通の基準に基づいた公平なコンペティションを実現し、その発展を促進することです。さらに、国際的なカーオーディオおよびマルチメディアの選手権大会を毎年開催することも重要な目的の一つとしています。加えて EMMA は、コンペティション参加者およびオーディオインストーラーの双方が、使用する機材に対する知識を深めることを支援しています。こうした知識の向上は、インストールの品質向上につながり、機材本来の性能を最大限に引き出すことを可能にします。その結果として、コンペティション参加者および顧客の満足度向上にも寄与することが期待されています。

1.3 コンペティションの課題

サウンドクオリティにおける課題は、自動車特有の音響特性による制約を克服し、ノイズや歪みのない音楽再生を実現するオーディオまたはマルチメディアシステムを構築することにあります。そして、まるで「オリジナル」に忠実な音楽再現を目指すことが重要です。

1.4 コンペティションの精神

European Mobile Media Association (EMMA) は、「欧州および世界において誰がトップであるか」を明確にしたいというコンペティション参加者のニーズに応えるために設立されました。現代の高性能なカーオーディオ機材は、音楽を正確かつ大音量で再生することが可能であり、再生音であることを感じさせないほどのクオリティを実現しています。しかし一方で EMMA は、リスニングにおいて最も重要な器官である耳には限界があるという事実が、十分に認識されていない可能性を懸念しています。特に憂慮すべき点は、過度な音量でのリスニングにより聴覚に負担をかけ、その結果として、本来楽しむべき音楽を聴くことが困難になるリスクです。本ルールブックは、EMMA の国際的なヘッドジャッジおよびスーパーバイザーによる議論を経て編纂されたものであり、以下の各国メンバーの支援により完成しました。Costas Christopoulos (ギリシャ), Reinier Wolf, Carel Wolf (オランダ), Prapasakorn Bhucksasri (フィリピン), Ketil Skjei (ノルウェー), Steffen Schmidt (デンマーク), Somkiat Pookayaporn (タイ王国), Chris Körbel, Norbert Tyka, David Smiejczak, Alois Preiß, Volker Simmer & Alex Klett (ドイツ), Francesco Richichi (イタリア)

免責規定

European Mobile Media Association (EMMA) が公認するいかなるイベントにおいても、コンペティション参加車両、機材、その他の物品に生じた損害または損失について、EMMA は直接的または間接的を問わず、一切の責任を負わないものとします。また EMMA は、コンペティション参加者および一般来場者に対し、聴力の保護に十分配慮することを強く推奨します。

European Mobile Media Association (EMMA) の公式ルール、スコアシート、その他の関連資料、ならびに CD、DVD 等の媒体や提供されたデジタルオーディオファイルを含むすべての複製物、およびブランド名・ロゴの使用については、European Mobile Media Association の所有者による承認を必要とします。本ルールブックに関するすべての更新情報および審査に関する詳細は、www.emmanet.com にて公開されています。著作権: EMMA GmbH 2026

2 EMMA カテゴリとクラス

サウンドクオリティのカテゴリとクラス

EMMA C (Challenge)

- 3000 ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可、インストール審査はアドバイスのみ ※P26 (5.11 価格制限クラス) を参照してください
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可、インストール審査はアドバイスのみ

インストール:

インストール審査はありません – 文書/プレゼンテーションは要求されません

制限事項:

- インストールの制限はありません

EMMA E (Entry)

- 3000 ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P26 (5.11 価格制限クラス) を参照してください
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可

インストール:

- 基本的なインストールのみ ※P29 (6. 審査マトリックス) を参照してください
- プレゼンテーションは必要ありません
- 隠れて見えないコンポーネントは文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- スポンサーを受けていない
- 新規エントリー限定クラス (過去に EMMA コンテストに参加したことが無い方)
- ジャッジや業界関係者ではない
- 改良した装置や自作の装置 (たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど) の使用は禁止
- インストールの制限はありません

競技者は、E カテゴリにおいて最大 2 競技年度まで参加することができます。ただし、国内決勝および／または国際決勝のチャンピオンは、上位カテゴリへ昇格するものとします。

EMMA S (Skilled)

- 4000 ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P26 (5.11 価格制限クラス) を参照してください
- 無制限 ※ユーザーカーのみエントリー可

インストール:

- 標準的なインストール審査 ※P29 (6. 審査マトリックス) を参照してください

- プレゼンテーションは必要ありません
- 隠れて見えないコンポーネントは文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- スポンサーを受けていない
- ジャッジや業界関係者ではない
- 改良した装置や自作の装置(たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど)の使用は禁止
- インストールの制限はありません

EMMA M(Master)

- 8000 ユーロ未満 ※ユーザーカーのみエントリー可 ※P26(5.11 価格制限クラス)を参照してください
- 無制限 ※プロもエントリー可

インストール:

- 中程度のインストール審査 ※P29(6.審査マトリックス)を参照してください
- 文書が必要です
- システム図や配線図は必要です

制限事項:

- ジャッジや業界関係者ではない(無制限クラスは可)
- 改良した装置や自作の装置(たとえばヘッドユニット、ラインドライバー、アンプ、アクティブクロスオーバー、パッシブクロスオーバーなど)の使用は禁止(無制限クラスは可)
- インストールの制限はありません

EMMA X(Expert)

- 無制限 ※プロもエントリー可

インストール:

- 最高レベルのインストール審査 ※P29(6.審査マトリックス)を参照してください
- 詳細な文書が必要です
- プレゼンテーションが必要です
- システム図や配線図は必要です
- 車両全体のデザインが加点されます

制限事項:

- 車両は車検に登録されていなくても構いません
 - 車両は運転者が着座した状態で運転できなければなりません
 - ボーナスポイントは100ポイントです
- プレゼンテーションの制限時間は 15 分以内

3 EMMA ルール インストールのクオリティ

システムの耐久性および長寿命、論理的統合、ならびに視覚的品質を向上させることを目的として、インストールクオリティに関する審査基準を定めています。インストールクオリティの審査は、カテゴリーに応じて 1 名または 2 名のインストールジャッジが、本公式ルールブックに基づき実施します。インストールジャッジは、適切な評価を行うため、本ルールブックに基づく専門的な研修を受講し、資格を取得しています。

インストールクオリティの審査後、コンペティション参加者は、自車両のインストールに関して、本ルールブックで定められた評価項目に基づく専門的かつ客観的なフィードバックを受けることができます。

European Mobile Media Association(EMMA)では、インストールを分かりやすく評価するため、複数の項目に分類しています。ジャッジがコンペティション参加者に対し、「良い／悪い」あるいは「獲得ポイント」といった単純な表現で評価を伝えることはありません。ジャッジは専門家として、スコアシートを用いながら、関連する各評価項目に基づきインストールクオリティを詳細かつ正確に説明します。

付与されたスコアは、コンペティション参加者にとって理解しやすい形式となっており、必要に応じて EMMA ルールブックを参照することで容易に確認できます。また、参加者は自身のシステムインストールにおける改善の可能性についても学ぶことができます。

さらにジャッジは、オーディオシステムのインストール改善に関する助言や参考意見を提供することが認められています(ただし特定のブランド名を用いないこと)。これにより、コンペティション参加者、ディーラー、および関係者は、インストール品質および機材の活用方法の向上を図ることができます。

3.1 インストールのルール:E(Entry)カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中は、観客に車両およびインストールを公開すること。サウンドシステムの試聴が可能な状態とすること。システム図を用意すること。これらの項目は、1日に複数回確認されます。

クリーン (0~6)

車両外装は洗車されていること。車室内は掃除機によって清掃されていること。

以下の項目について、各々「はい／いいえ(Yes/No)」で評価を行います。

- 車両外装が洗車されているか
 - 車室内が掃除機で清掃されているか
 - エンジンルームおよびトランク内にインストールされたコンポーネントが清掃されているか
- 清掃が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに2点を減点します。

システム図/配線図 (0~4)

システム図および配線図がそれぞれ用意されている場合、各2点を付与します。

メインヒューズ (0または10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラス側バッテリーポストから40cm以内、または金属パネルを通過する前の位置にヒューズを設置しなければなりません。電源回路図が提出されていない場合、本項目の得点は0点とします。

コンポーネントの確実な取り付け (0~24ポイント)

すべてのコンポーネントが確実に固定されているかを確認します。以下の項目について、「はい／いいえ(Yes/No)」で評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー
固定が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに2点を減点します。

スピーカーの保護 (0~5ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例:Aピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径3cmの円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができずはいけません。各スピーカーに対し少なくとも1個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに2点を差し引き)他のスピーカーは保護が必要ありません。

インストールの視覚的第一印象 (0~10ポイント)

すべてのコンポーネントのインストールが完了していることを確認します。以下の項目について評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス
インストールが完了していないコンポーネントについては、該当項目ごとに1点を減点します。

3.2 インストールのルール:S (Skilled)カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0~10)

イベント開催中は、観客に車両およびインストールを公開すること。サウンドシステムの試聴が可能な状態とすること。システム図を用意すること。これらの項目は、1日に複数回確認されます。

クリーン (0~6)

車両外装は洗車されていること。車室内は掃除機によって清掃されていること。

以下の項目について、各々「はい／いいえ(Yes/No)」で評価を行います。

- 車両外装が洗車されているか
- 車室内が掃除機で清掃されているか
- エンジンルームおよびトランク内にインストールされたコンポーネントが清掃されているか
清掃が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに2点を減点します。

システム図/配線図 (0~4)

システム図および配線図がそれぞれ用意されている場合、各2点を付与します。

メインヒューズ (0または10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラス側バッテリーポストから40cm以内、または金属パネルを通過する前の位置にヒューズを設置しなければなりません。電源回路図が提出されていない場合、本項目の得点は0点とします。

コンポーネントのヒューズ (0~15ポイント)

オーディオシステムに属するコンポーネントのケーブルにヒューズが取り付けられているか確認してください。すべてのヒューズは3分以内に目視できる必要があります(ヒューズ1つにつき3分ではなく、全体の合計時間です)。

ヘッドユニット(操作パネル、ディスプレイ)、その他の機器、アンプ

(該当なし、または目視できない場合は、ヒューズが取り付けられていないコンポーネント1つにつき2点減点、最低0点)、審査には配線図が必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0~20ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けられているか確認します。

ケーブルサイズ(mm ²)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

代替方法として、ケーブルサイズおよびヒューズ容量は、ジャッジブックに記載された計算式により算出することができます。この場合、計算結果を文書化し、審査員に提出して確認を受ける必要があります。

計算に使用する電圧は $U=12V$ とします。本ルールは、電源システム内のすべての電気導体、電源分配ブロック、バスバー等に適用されます。複数バッテリーシステムにおいては、各分配ブロックへ電流を供給するすべてのバッテリーおよびヒューズに十分注意を払う必要があります。短絡が発生した場合、両側から電源が供給される可能性があるため、導体はすべての電源から流入する合計電流、または各電源を保護するヒューズ

容量に耐えうる仕様でなければなりません。該当なし(n/a)、不適切なサイズ、または確認不能な場合は、不適切なヒューズ 1 箇所につき 2 点を減点します(最低 0 点)。車両の純正アースケーブルが強化されていない場合、メインヒューズ(または複数のメインヒューズの合計容量)は最大 100A までとします。ただし、純正アースケーブルのサイズを用いて、規定の計算式に基づく算出結果が提出されている場合はこの限りではありません。

室内配線の視認性 (0～5 ポイント)

運転席に着座した状態において、ドアの開閉にかかわらず、システムインストールに使用されているケーブルが視認できるかを確認します。システムケーブルが視認可能な場合、該当箇所ごとに 2 点を減点します(最低 0 点)。スマートフォン、タブレット、ストレージ機器等のポータブルデバイスについては、当該デバイスに付属するケーブルを用いてシステムに接続されている場合に限り、そのケーブルは本評価の対象外とします。
参考: ストリーミング再生を行う場合、当該デバイスは車両へ固定して設置する必要はありません。

コンポーネントの確実な取り付け (0～24 ポイント)

すべてのコンポーネントが確実に固定されているかを確認します。以下の項目について、「はい/いいえ(Yes/No)」で評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー
固定が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに 2 点を減点します。

スピーカーの保護 (0～5 ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例: A ピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径 3cm の円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができてはいけません。各スピーカーに対し少なくとも 1 個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに 2 点を差し引きします)他のスピーカーは保護が必要ありません。

車両の通常使用への影響 (0～6 ポイント)

European Mobile Media Association(EMMA)は、オーディオコンポーネントのインストールを目的として、車両内装の改造を認めています(OEM クラスを除く)。運転者および同乗者は、快適に着座できること、ならびに車両の各種操作を妨げられることなく行えることが求められます(フロント部に設置されたサブウーファーやスピーカー、過度に高くなったフロア等に留意すること)。OEM は限られた車室空間において安全性および快適性を最大限に確保しているため、EMMA では OEM の内装形状を基準として評価を行います。助手席の足元スペースは、運転席側の純正状態(シートとペダル間)における足元スペースよりも狭くなってはなりません。審査は通常のドライビングポジションで行います。

インストールの視覚的第一印象 (0～10 ポイント)

すべてのコンポーネントのインストールが完了していることを確認します。以下の項目について評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス
インストールが完了していないコンポーネントについては、該当項目ごとに 1 点を減点します。

3.3 インストールのルール: M (Master) カテゴリ

観客に対するプレゼンテーション (0～10)

イベント開催中は、観客に車両およびインストールを公開すること。サウンドシステムの試聴が可能な状態とすること。システム図を用意すること。これらの項目は、1 日に複数回確認されます。
例外: イベントでのジャッジ担当者/イベント運営事務局のスタッフ

観客に対するプレゼンテーション(ボーナスポイント) (0～5)

指定された時間内において、参加者は自身の車両やインストールの魅力を効果的に伝えるための活動を行うこと。

クリーン (0～6)

車両外装は洗車されていること。車室内は掃除機によって清掃されていること。
以下の項目について、各々「はい/いいえ(Yes/No)」で評価を行います。

- 車両外装が洗車されているか
- 車室内が掃除機で清掃されているか

- エンジンルームおよびトランク内にインストールされたコンポーネントが清掃されているか
清掃が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに 2 点を減点します。

システムの文書 (0～10 ポイント)

以下の項目について確認を行います。

- 信号系統図(シグナルフローチャート)
 - ケーブル/ヒューズ配線図
 - 目視できない接続部またはコンポーネントに関する記録(写真ログ)
- 不足している項目がある場合、1 項目につき 1 点を減点します(最低 0 点)

審査員への説明 (0～5 ポイント)

車両オーナーまたは指定されたプレゼンターは、審査員に対して最大 7 分間のシステム説明を行うこと(動画の使用は禁止)。参考:説明は、使用しているブランドや最終的な結果ではなく、インストールの方法およびその意図に焦点を当てること。制限時間を超過した場合、30 秒ごとに 1 点を減点します。

メインヒューズ (0 または 10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラス側バッテリーポストから 40cm 以内、または金属パネルを通過する前の位置にヒューズを設置しなければなりません。電源回路図が提出されていない場合、本項目の得点は 0 点とします。

コンポーネントのヒューズ (0～15 ポイント)

オーディオシステムに属するコンポーネントのケーブルにヒューズが取り付けられているか確認してください。すべてのヒューズは 3 分以内に目視できる必要があります(ヒューズ 1 つにつき 3 分ではなく、全体の合計時間です)。

ヘッドユニット(操作パネル、ディスプレイ)、その他の機器、アンプ

(該当なし、または目視できない場合は、ヒューズが取り付けられていないコンポーネント 1 つにつき 2 点減点、最低 0 点)、審査には配線図が必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0～20 ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けられているか確認します。

ケーブルサイズ(mm ²)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

代替方法として、ケーブルサイズおよびヒューズ容量は、ジャッジブックに記載された計算式により算出することができます。この場合、計算結果を文書化し、審査員に提出して確認を受ける必要があります。

計算に使用する電圧は $U = 12V$ とします。本ルールは、電源システム内のすべての電気導体、電源分配ブロック、バスバー等に適用されます。複数バッテリーシステムにおいては、各分配ブロックへ電流を供給するすべてのバッテリーおよびヒューズに十分注意を払う必要があります。短絡が発生した場合、両側から電源が供給される可能性があるため、導体はすべての電源から流入する合計電流、または各電源を保護するヒューズ容量に耐えうる仕様でなければなりません。該当なし(n/a)、不適切なサイズ、または確認不能な場合は、不適切なヒューズ 1 箇所につき 2 点を減点します(最低 0 点)。車両の純正アースケーブルが強化されていない場合、メインヒューズ(または複数のメインヒューズの合計容量)は最大 100A までとします。ただし、純正アース

ケーブルのサイズを用いて、規定の計算式に基づく算出結果が提出されている場合はこの限りではありません。

室内配線の視認性 (0～5 ポイント)

運転席に着座した状態において、ドアの開閉にかかわらず、システムインストールに使用されているケーブルが視認できるかを確認します。システムケーブルが視認可能な場合、該当箇所ごとに2点を減点します(最低0点)。スマートフォン、タブレット、ストレージ機器等のポータブルデバイスについては、当該デバイスに付属するケーブルを用いてシステムに接続されている場合に限り、そのケーブルは本評価の対象外とします。

参考: ストリーミング再生を行う場合、当該デバイスは車両へ固定して設置する必要はありません。

ケーブルの適切な末端処理 (0～5 ポイント)

すべてのケーブルについて、終端部において適切に固定・処理されているかを、実物確認または写真ログにより確認します。終端処理または固定が不十分なケーブルについては、該当1本ごとに1点を減点します(最低0点)

ケーブル終端の適切な保護 (0～10 ポイント)

ケーブル終端部について、通常の走行状態(すべてのパネルおよびカバーが装着された状態)において短絡が発生しないように設置されているか、または非導電性材料により適切に保護されているかを、実物確認または写真ログにより確認します。さらに、水分にさらされる可能性のある箇所(例: ドア内部)については、適切な防湿対策が講じられていることを確認します。保護が不十分なケーブル終端部については、該当箇所ごとに1点を減点します(最低0点)

損傷からのケーブル保護 (0～5 ポイント)

金属部を貫通するケーブル(例: エンジンルームから車室内への配線)は、グロメット、ラバー、または同等の保護部材により適切に保護されていなければなりません。また、機械的な負荷がかかるケーブル(例: ドア内部)や可動部(例: エンジンベルト付近)に近接するケーブルについては、純正のケーブルトレイに収められていない場合、保護スリーブを使用しなければなりません。保護が不十分なケーブルについては、該当箇所ごとに1点を減点します(最低0点)

コンポーネントの確実な取り付け (0～24 ポイント)

すべてのコンポーネントが確実に固定されているかを確認します。以下の項目について、「はい/いいえ(Yes/No)」で評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー
固定が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに2点を減点します。

スピーカーの保護 (0～5 ポイント)

窓のラインから下に設置されているスピーカーはスピーカーの保護が必要です。車内のドアやフットルームに取り付けられているスピーカーが損傷から保護されているか確認します。(例: Aピラー、ドアミラー裏等へ装着したスピーカーの保護は必要ありません)ダッシュボードの下などに取り付けてある隠れたスピーカーは、ドライバーや乗客の足が届かなければ保護の必要がありません。直径3cmの円筒形の物体で膜(コーン紙等)に触れることができてはいけません。各スピーカーに対し少なくとも1個の保護要素が必要です。(保護されていないスピーカーごとに2点を差し引きします)他のスピーカーは保護が必要ありません。

車両の通常使用への影響 (0～6 ポイント)

European Mobile Media Association(EMMA)は、オーディオコンポーネントのインストールを目的として、車両内装の改造を認めています(OEMクラスを除く)。運転者および同乗者は、快適に着座できること、ならびに車両の各種操作を妨げられることなく行えることが求められます(フロント部に設置されたサブウーファーやスピーカー、過度に高くなったフロア等に留意すること)。OEMは限られた車室空間において安全性および快適性を最大限に確保しているため、EMMAではOEMの内装形状を基準として評価を行います。助手席の足元スペースは、運転席側の純正状態(シートとペダル間)における足元スペースよりも狭くなってはなりません。審査は通常のドライビングポジションで行います。

インストールの視覚的第一印象 (0～10 ポイント)

すべてのコンポーネントのインストールが完了していることを確認します。以下の項目について評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー/スピーカーボックス
インストールが完了していないコンポーネントについては、該当項目ごとに1点を減点します。

クラフトマンシップ (0～10 ポイント)

配線経路、終端処理、コンポーネントの設置状態、パネルの取り付け、表面仕上げ、隙間の均一性等について、以下のカテゴリごとに確認を行います。

- 配線(Wiring)
- ヘッドユニット(操作パネル、ディスプレイ)
- アンプ
- スピーカー
- その他のコンポーネント

クラフトマンシップは、コンポーネントのインストールにおいて発揮された作業の完成度および仕上がり品質を評価するものです。評価は、単に取り付けが正しく行われているかではなく、必要最低限の作業を超えてどの程度の工夫や丁寧な仕上げがなされているかに基づいて行われます。正しく取り付けられているだけでは、満点評価とはなりません。また、クラフトマンシップは使用されている材料の価格や種類ではなく、施工の質および投入された手間によって評価されます。

3.4 インストールのルール:X(Expert)カテゴリ(無制限)

観客に対するプレゼンテーション (0～10)

イベント開催中は、観客に車両およびインストールを公開すること。サウンドシステムの試聴が可能な状態とすること。システム図を用意すること。これらの項目は、1日に複数回確認されます。

例外: イベントでのジャッジ担当者/イベント運営事務局のスタッフ

観客に対するプレゼンテーション(ボーナスポイント) (0～5)

指定された時間内において、参加者は自身の車両やインストールの魅力を効果的に伝えるための活動を行うこと。

クリーン (0～6)

車両外装は洗車されていること。車室内は掃除機によって清掃されていること。

以下の項目について、各々「はい/いいえ(Yes/No)」で評価を行います。

- 車両外装が洗車されているか
 - 車室内が掃除機で清掃されているか
 - エンジンルームおよびトランク内にインストールされたコンポーネントが清掃されているか
- 清掃が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに2点を減点します。

システムの文書 (0～10 ポイント)

以下の項目について確認を行います。

- 信号系統図(シグナルフローチャート)
- ケーブル/ヒューズ配線図
- 目視できない接続部またはコンポーネントに関する記録(写真ログ)

不足している項目がある場合、1項目につき1点を減点します(最低0点)

審査員への説明 (0～10 ポイント)

車両オーナーまたは指定されたプレゼンターは、審査員に対して最大7分間のシステム説明を行うこと(動画の使用は禁止)。参考:説明は、使用しているブランドや最終的な結果ではなく、インストールの方法およびその意図に焦点を当てること。制限時間を超過した場合、30秒ごとに1点を減点します。

メインヒューズ (0または10)

システムのメイン電源ケーブルには、プラス側バッテリーポストから40cm以内、または金属パネルを通過する前の位置にヒューズを設置しなければなりません。電源回路図が提出されていない場合、本項目の得点は0点とします。

コンポーネントのヒューズ (0～15 ポイント)

オーディオシステムに属するコンポーネントのケーブルにヒューズが取り付けられているか確認してください。すべてのヒューズは3分以内に目視できる必要があります(ヒューズ1つにつき3分ではなく、全体の合計時間です)。

ヘッドユニット(操作パネル、ディスプレイ)、その他の機器、アンプ

(該当なし、または目視できない場合は、ヒューズが取り付けられていないコンポーネント1つにつき2点減点、最低0点)、審査には配線図が必要です。

電源ケーブルへの適切なヒューズ取り付け (0～20 ポイント)

オーディオに関連するケーブルに適切なヒューズが取り付けされているか確認します。

ケーブルサイズ(mm ²)	ケーブルサイズ(AWG)	最大ヒューズ容量(A)
0.5	20	10
1	17	15
1.5	15	20
2.5	13	20
4	11	30
6	9	50
10	7	60
16	5	100
25	3	125
35	2	175
50	0	250
70	00	300

代替方法として、ケーブルサイズおよびヒューズ容量は、ジャッジブックに記載された計算式により算出することができます。この場合、計算結果を文書化し、審査員に提出して確認を受ける必要があります。計算に使用する電圧は $U=12V$ とします。本ルールは、電源システム内のすべての電気導体、電源分配ブロック、バスバー等に適用されます。複数バッテリーシステムにおいては、各分配ブロックへ電流を供給するすべてのバッテリーおよびヒューズに十分注意を払う必要があります。短絡が発生した場合、両側から電源が供給される可能性があるため、導体はすべての電源から流入する合計電流、または各電源を保護するヒューズ容量に耐えうる仕様でなければなりません。該当なし(n/a)、不適切なサイズ、または確認不能な場合は、不適切なヒューズ1箇所につき2点を減点します(最低0点)。車両の純正アースケーブルが強化されていない場合、メインヒューズ(または複数のメインヒューズの合計容量)は最大100Aまでとします。ただし、純正アースケーブルのサイズを用いて、規定の計算式に基づく算出結果が提出されている場合はこの限りではありません。

室内配線の視認性 (0～5 ポイント)

運転席に着座した状態において、ドアの開閉にかかわらず、システムインストールに使用されているケーブルが視認できるかを確認します。システムケーブルが視認可能な場合、該当箇所ごとに2点を減点します(最低0点)。スマートフォン、タブレット、ストレージ機器等のポータブルデバイスについては、当該デバイスに付属するケーブルを用いてシステムに接続されている場合に限り、そのケーブルは本評価の対象外とします。参考: ストリーミング再生を行う場合、当該デバイスは車両へ固定して設置する必要はありません。

ケーブルの適切な末端処理 (0～5 ポイント)

すべてのケーブルについて、終端部において適切に固定・処理されているかを、実物確認または写真ログにより確認します。終端処理または固定が不十分なケーブルについては、該当1本ごとに1点を減点します(最低0点)

ケーブル終端の適切な保護 (0～10 ポイント)

ケーブル終端部について、通常の走行状態(すべてのパネルおよびカバーが装着された状態)において短絡が発生しないように設置されているか、または非導電性材料により適切に保護されているかを、実物確認または写真ログにより確認します。さらに、水分にさらされる可能性のある箇所(例: ドア内部)については、適切な防湿対策が講じられていることを確認します。保護が不十分なケーブル終端部については、該当箇所ごとに1点を減点します(最低0点)

損傷からのケーブル保護 (0～5 ポイント)

金属部を貫通するケーブル(例: エンジンルームから車室内への配線)は、グロメット、ラバー、または同等の保護部材により適切に保護されていなければなりません。また、機械的な負荷がかかるケーブル(例: ドア内部)や可動部(例: エンジンベルト付近)に近接するケーブルについては、純正のケーブルトレイに収められて

いない場合、保護スリーブを使用しなければなりません。保護が不十分なケーブルについては、該当箇所ごとに 1 点を減点します（最低 0 点）

コンポーネントの確実な取り付け (0～24 ポイント)

すべてのコンポーネントが確実に固定されているかを確認します。以下の項目について、「はい／いいえ (Yes / No)」で評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー
固定が不十分と判断された項目については、該当箇所ごとに 2 点を減点します。

インストールの視覚的第一印象 (0～10 ポイント)

すべてのコンポーネントのインストールが完了していることを確認します。以下の項目について評価を行います。ヘッドユニット、その他のデバイス、アンプ、スピーカー／スピーカーボックス
インストールが完了していないコンポーネントについては、該当項目ごとに 1 点を減点します。

クラフトマンシップ (0～50 ポイント)

配線経路、終端処理、コンポーネントの設置状態、パネルの取り付け、表面仕上げ、隙間の均一性等について、以下のカテゴリーごとに確認を行います。

- 配線 (Wiring)
- ヘッドユニット (操作パネル、ディスプレイ)
- アンプ
- スピーカー
- その他のコンポーネント

クラフトマンシップは、コンポーネントのインストールにおいて発揮された作業の完成度および仕上がり品質を評価するものです。評価は、単に取り付けが行われているかではなく、必要最低限の作業を超えて、どの程度の工夫や施工品質が示されているかに基づいて行われます。また、クラフトマンシップは使用されている材料の価格や種類ではなく、施工の質および投入された手間によって評価されます。

評点基準 (スコアリングガイドライン)

- 0 点: 工夫が見られない
- 1～3 点: 工夫が少なく、仕上がりが不十分
- 4～6 点: 一定の工夫が見られ、良好な仕上がり
- 7～10 点: 高い工夫が明確に見られ、優れた仕上がり

各カテゴリー最大 10 点、合計最大 50 点とします。

審査員は、示されたクラフトマンシップのレベルに応じて、評価範囲を適切に活用して採点を行うものとします。

インテリアのデザイン (0～10 ポイント)

車室内に設置されたコンポーネントが、明確なデザインコンセプトに基づいているか。デザインコンセプトに沿っていない要素がある場合、該当要素ごとに 1 点を減点します（最低 0 点）

トランクのデザイン (0～10 ポイント)

トランクに設置されたコンポーネントが、明確なデザインコンセプトに基づいているか。デザインコンセプトに沿っていない要素がある場合、該当要素ごとに 1 点を減点します（最低 0 点）

車両全体のデザイン (0～10 ポイント)

満点を得るためには、車両本体およびインストールされたすべてのコンポーネントにおいて、車内、車外、ならびにトランクを含めた全体にわたり、一貫したデザインテーマが明確に反映されていなければなりません。車両は、初期段階から一つのプロジェクトとして設計され、審査員および観覧者に対して明確なコンセプトが直感的に伝わるものである必要があります。デザインテーマの種類自体は問いませんが、デザインに対する工夫が見られない箇所については、得点を得ることはできません。

デザインコンセプトに沿っていない要素がある場合、該当要素ごとに 1 点を減点します（最低 0 点）

ボーナスポイント (0～100 ポイント)

インストールに関連する要素のうち、以下の条件を満たすものについては、ボーナスポイントを付与します。

- コンポーネントを独創的に演出していること

- 観客の関心を引きつけるものであること(騒音による演出は認められません)
- システムがインストールされている状態でも、車両の通常使用が損なわれていないこと
- 創造性のあるシステムプレゼンテーションであること

コンペティション参加者は、ボーナスポイントに関する申請(最大 50 件)を、審査員へのプレゼンテーション(説明)と併せて提出しなければなりません。各申請につき、最大 3 点のボーナスポイントを付与します。ただし獲得できるボーナスポイントは 100 点を上限とする。

- アイデア自体: 1 点
- 実現度が標準的な場合: 1 点
- 実現度が優れている場合: 2 点

4 EMMA ルール サウンドクオリティ

4.1 審査前のチェック

充電器が接続されているかのチェック y/n

- サウンドクオリティ審査開始前に、審査員は充電器または外部電源が接続されていないかを確認し、接続されている場合はコンペティション参加者に取り外しを求めるものとします。
- サウンドクオリティ審査中は、車両のメインバッテリーおよびシステムに接続された追加バッテリー以外の電源を使用することは禁止されます。
- バッテリーシステム以外のエネルギー源(例:ソーラーパネル、発電機、燃料電池等)は、サウンドクオリティ審査中に使用することはできません。これらはバッテリーへ充電を行わない状態とするため、接続を解除するか、動作を停止しなければなりません。
- 審査員は、充電器が接続されていないことを確認し、その旨をスコアシートの該当欄に記録します。

妥当な運転姿勢の確認 y/n

- サウンドクオリティ審査開始前に、審査員は、SQ 審査時のシート調整状態において、競技者がシフトレバー、ステアリング、ペダルを適切に操作できるかを確認し、妥当な運転姿勢であることを検証します。例外は身長 170cm 未満の競技者に限り認められます。
- 着座した状態でステアリング、シフトレバーおよびペダルの操作ができない場合、審査員は審査開始前に、競技者に対して妥当な運転姿勢となるようシート位置の調整を求めます。
- 競技者は、審査中に審査員に対して、自身にとっての妥当な運転姿勢で着座するよう求めることができます。(注:競技者と審査員の身長差が大きい場合(例:競技者が小柄で審査員が高身長)、審査員は必ずしも競技者の運転姿勢で音質評価を行う必要はありません。逆に、クッション等を使用して高さを調整することは可能です。)
- 審査員は、妥当な運転姿勢であることを確認し、その内容をスコアシートの該当欄に記録します。
- 競技者は、スピーカー配置(キックパネル、シート下設置等)からの音に影響を与えないよう、審査員に対して注意を促すことができます。審査員は、スコアシートで覆ったり足で遮ったりすることにより、音を妨げてはなりません。

チャンネルの確認

公式 EMMA サウンドクオリティ音源のトラック 2 および 3 を使用します。システムの左右チャンネルが正しく再生されている場合、審査員はその旨をスコアシートに記録します。チャンネルの左右が逆になっている場合、審査員は競技者に通知します。競技者は、当該不具合を修正するために最大 5 分間の修理時間が与えられます。修正が完了しない場合は、競技者自身がそのまま審査を受けるかどうかを判断するものとします。

ボリュームの較正

- サウンドクオリティ審査における適正音量の提案は、競技者の責任とします。審査員はその提案を求め、当該音量を基準として使用します。
- 提案された音量が過大であると判断された場合(ピンクノイズによる非加重・スロー測定で 93dB を超える場合)、審査員は測定を行い、音量を 93dB 未満に調整します。
- 提案された音量が過小であると判断された場合、予選ラウンドに限り、審査員は競技者に音量調整を求めることができます。ただし、国内決勝および国際決勝では調整を求めることはできません。

- ボリューム設定値(デジタル表示値)またはボリュームコントロールの位置は、スコアシートの指定欄に記録されます。
- また、EMMA サウンドクオリティ音源の再生に使用された機器についても、スコアシートに記録されます。

サウンドクオリティに関する一言

優れたオーディオシステムとは、正確な周波数特性および音場表現により、原音を忠実に再現するものを指します。適切な周波数特性とは、シンバルのような高音域から、人の声や各種楽器、さらにシンセサイザーやドラムによる低音域に至るまで、幅広い音域を正確に再生できることを意味します。周波数特性には、音色(楽器の質感を正確に再現する能力)、リアリティ(音量の変化にかかわらず音質が一定であること)、および明瞭度(原音に対する歪みの少なさ)が含まれます。優れた音場表現とは、演奏者が前方に配置されたステージを想起させる空間的な再現性を指し、高さ・幅・奥行きといった立体的な広がりを伴います。イメージングとは、仮想ステージ上において各楽器の位置を正確に定位させる能力を意味します。

4.2 サウンドステージ

オーディオシステムによって再現されるサウンドステージとは、音が発せられていると認識される空間を指します。これはコンサートホールにおけるステージ、すなわち音の発生源となる空間と同様の概念です。「イメージング」とは、サウンドステージ上において各楽器の位置およびバランスを正確に再現するオーディオシステムの能力を指します。本審査の目的は、車両のオーディオシステムによって形成されるサウンドステージの境界を明確に特定することにあります。これらの境界を把握することにより、イメージングの評価を正確に行うことが可能となります。サウンドステージの確認には、トラック 12(ムービングトラック)を使用します。

サウンドステージ サウンドステージまでの距離

指定されたムービングトラックは、リスナーの位置に対してサウンドステージがどの位置から始まるか(距離)を把握するために使用します。サウンドステージ中央で再生される音、および最もリスナーに近い位置に定位する音が、サウンドステージの開始位置を示します。

安定した位置に定位する楽器:

コシチャイム、フルート、シェイカー、ディープゴング、金属パーカッションプレート、トライアングル、ドラム、タンバリン、各種エレクトリックギター、エレクトリックベース、ドブロ、トランペット、サクソ、オルガン、エレクトリックピアノ

移動する位置に定位する楽器:

ミュートギター、カウベル

サウンドステージ サウンドステージの幅

指定されたムービングトラックは、サウンドステージの幅を評価するために使用します。サウンドステージの幅とは、車両に対して仮想的に認識される最も左の位置から最も右の位置までの距離を指します。審査の目的は、リスナーに対して広がりのあるサウンドステージを再現することにあります。優れたオーディオシステムでは、サウンドステージが車室内の物理的な境界を超えて広がっているように感じられる場合もあります。

この段階では、仮想サウンドステージ上における「左端」と「右端」の位置関係のみを評価対象とします。

サウンドステージ サウンドステージの高さ

サウンドステージの高さとは、サウンドステージ全体の幅にわたって認識される音の発生位置の高さを指し、水平基準(ホライズンライン)に対する位置関係および、全周波数帯域におけるその高さの一貫性によって定義されます。本競技の目的は、水平基準上において安定した音像を実現し、その上方に車室空間として自然な広がりを感じられる状態を達成することにあります。楽器およびボーカルは、その高さに一貫して定位し、サウンドステージの上下から分離して聞こえてはなりません。特に、ステージ高さが左右方向において安定しているかに注意を払います。一部の車両では中央は適切な高さを示す一方で、左右端に向かうにつれて高さが低下する場合がありますが、このような現象は評価に反映されます。すべての楽器は同一の高さに定位しているように知覚される必要があります。

サウンドステージ ルームインフォメーション

トラック 12(ムービングトラック)は、ルームインフォメーション(空間情報)の評価に使用します。ルームインフォメーション(アンビエンス)とは、音源の周囲に広がる空間として知覚される心理音響的な現象を指します。また、トラック 13~16 は、評価結果の確認および補強のために使用することができます。

ルームインフォメーション(空間情報)は、以下の方向性に基づいて評価します。

- 左右方向
- 前後方向
- 上下方向(天井／フロア)
- **評点基準(スコアリングガイドライン)**
- **1点**: 空間感なし(フラットなステージ)
- **2点**: わずかな空間感(車室サイズより明らかに小さい)
- **3点**: 一定の空間感(車室サイズ程度)
- **4点**: 良好な空間感(車室サイズよりやや広い)
- **5点**: 卓越した空間感(車室サイズを大きく超える)

4.3 イメージング特性

イメージング 位置

サウンドステージは、ステージ評価において確定された左右の境界によって定義されます。

定位およびフォーカスの評価には、テクニカルトラック2～6を使用し、5つの基準位置を設定します。センター位置は、最も左端と最も右端のちょうど中間に位置しなければなりません。左センターは、最左端とセンターの中間、右センターは、センターと最右端の中間に正確に位置する必要があります。すなわち、すべての位置は等間隔で配置されていることが求められます。音が本来定位すべき位置からずれている場合、その位置の評価点は減点されます。各楽器が正しい位置に定位している場合、審査員は1点を付与します。

以下の順序で、5種類の音が各ポジションに再現されます。

楽器	周波数帯域	サイズ
エレクトリックベース	極低域	大きい
エレクトリックギター	低域	前の楽器より小さい
バンジョー	中域	前の楽器より小さい
ビブラフォン	中高域	前の楽器より小さい
トライアングル	高域	最も小さい

イメージング フォーカス

フォーカスの評価は、上記の5つの各ポジションについて、トラック7～11を使用して行います。各トラックでは5種類の異なる楽器が再生され、それぞれ個別に評価されます。各楽器は、正しいサイズで定位している必要があります。フォーカスが不適切な場合、当該楽器は0点とします。フォーカスとは、各楽器のサイズが正確であることを意味し、各音の大きさは相対的な関係に基づいて評価されます。フォーカスのサイズは周波数帯域によって異なります。なお、サイズと音量を混同しないよう注意してください。音量が大きいことは、必ずしもサイズが大きいことを意味しません。各ポジションにおける各音は、明確に区別され、かつ適切なフォーカスサイズで再現される必要があります。各楽器が正しいフォーカスで再現されている場合、審査員は1点を付与します。

4.4 音色の正確性

音色の正確性と全体的なスペクトルバランス

トラック13、14、15および16を用いて、オーディオシステムは録音された音源を可能な限り現実的かつ忠実に再現することが求められます。ライブ録音であればその臨場感をそのままに、スタジオ録音であればプロデューサーの意図にできる限り近い形で再現されるべきです。

このため、EMMAではサウンドクオリティ審査員に対し、EMMAサウンドクオリティ音源がどのように録音され、どのように再生されるべきかを正確に理解するためのトレーニングを実施しています。

これにより、可聴周波数帯域を以下の4つの領域に分け、それぞれにおけるトーン精度を評価するための有効な基準として活用されます。

- サブベース
- ミッドベース
- ミッドレンジ

- 高域

および、可聴周波数域全体にわたる総合的なスペクトルバランス

トータル精度の評価においては、審査員は各周波数帯域ごとの再現性に焦点を当て、全体のスペクトルバランスは評価対象としません。一方、全体スペクトルバランスの評価においては、4 つの周波数帯域がどの程度調和し、EMMA サウンドクオリティ音源の本来の再現にどれだけ近づいているかを総合的に評価します。

サブベース(10Hz～60Hz)

この周波数帯域でシステムが再生するサウンドは、即座に認識でき、適切な量感を持ち、明瞭であり、歪みや突出部分があってはなりません。ここで重要なのは、良好な低域の伸びと突出部分の違いを認識することが重要です。突出部分とは音の減衰(ディケイ)が不自然に引き延ばされ、音がぼやけたり誇張されて聞こえる現象を指します。一方で、正確な低域の伸びは望ましい特性とされます。

ミッドベース(60Hz～200Hz)

審査員は、以下の音源に着目して評価を行います。

ボーカル、ベース、ブラス、チューバ、トロンボーン、フレンチホルン、トランペット、木管楽器、クラリネット、オーボエ、イングリッシュホルン、アルトサクソ、バス、バスクラリネット、コントラバス、ティンパニ、ベースバイオリン、チェロ、ギター、ビオラ、バイオリン、ハープ、ピアノ、オルガン、タンバリン、ドラム、フロアタム、ハープ

これらの音は、滑らかで明瞭な再現性と十分なディテールを伴って再生されることが求められます。特に、ドラムおよびベースギターのアタック(立ち上がり)とディケイ(減衰)には十分注意を払う必要があります。車室内は限られた空間であるため、この周波数帯域では共振、音のピーク、定在波といった問題が発生しやすい傾向があります。優れたシステムは、これらの問題を適切に制御し、音の忠実度に悪影響を与えないようにしています。

ミッドレンジ(200Hz～3kHz)

この周波数帯域には、多くの録音における音楽情報の大部分が含まれています。審査員は、以下の音源に着目して評価を行います。ボーカル、ベース、ブラス、チューバ、トロンボーン、フレンチホルン、トランペット、木管楽器、フルート、クラリネット、オーボエ、イングリッシュホルン、アルトサクソフォン、バス、弦楽器、チェロ、ギター、ビオラ、バイオリン、ハープ、ピアノ、オルガン、ピッコロ、ベル、ドラム、タンバリン、シンバル、ハイハット、ライド、シェイカー、ラトルスネーク、タムタム、フロアタム、ハープ。ボーカルは、不自然な共鳴、薄い音、こもり、歪みなどがなく、自然でリアルに再現されている必要があります。

高域(3kHz～不可聴)

審査員は、以下の音源およびボーカルの歯擦音に着目して評価を行います。ボーカル、木管楽器、ピッコロ、フルート、クラリネット、弦楽器、バイオリン、トライアングル、ブラシ(ドラムブラシ)、ハープ、ピアノ、オルガン、ベル、タムタム、シンバル、ハイハット、ライド、シェイカー、ラトルスネーク、ハープ、ならびにボーカルにおける歯擦音(「s」「f」「t」などの音が強調される傾向)これらの音は、正確かつ滑らかに再現されることが求められ、過度にこもったり、明るすぎたりしてはなりません。また、粗さ、薄い音、過度な歯擦音、歪みなどがあってはなりません。

音色の正確性の評価において、審査員は各周波数帯域の音質に着目し、相対的な音量は評価対象としません。相対音量については、スペクトルバランスの評価項目の一部として評価されます。

4.5 スペクトルバランス

各周波数帯域における相対音量は、スペクトルバランスの評価において判断されます。全体スペクトルバランスの評価にはトラック 16 を使用します。前章では、サブベース、ミッドベース、ミッドレンジ、高域の各帯域を個別に評価し、それぞれに得点が与えられましたが、本項ではそれらがどのように統合され、全体としての音楽表現を構成しているかを評価します。各帯域のバランスおよび相互の調和の度合いに応じて評価が決定されます。優れたシステムは、いずれの審査トラックにおいても自然で無理のない再生を実現します。一方、性能の劣るシステムでは、歪み、不自然な音色変化、ダイナミックレンジの圧縮、周波数特性の乱れなどが生じ、聴取疲労を招き、不自然な音に感じられます。審査トラック再生時に、楽器やボーカルが現実的に存在するかのような再現がなされているか、また各周波数帯域間のエネルギー配分が適切で自然に聞こえるかを評価します。特に、異なる周波数帯域がどれだけ滑らかに統合されているかに注目します。さらに、審査員は音量を手動で約+6dB 上げた状態で同一トラックを再度再生し、

より高い音量レベルにおいても前述のスペクトルバランスが維持されているかを評価します。この評価により、システムのダイナミック特性も確認されます。高音量時においても、審査員は前述の評価項目に加え、安定した現実的なダイナミクスを確認します。各楽器は、歪み（アンプのクリッピングやスピーカーの限界）によって圧縮されることなく、自然なアタックおよびインパクトを持って再現される必要があります。システムが初期音量から 6dB の音量増加に対応できない場合、審査員はシステムが正常に動作しているかを競技者に確認し、必要に応じて修理時間を設定することができます。この場合、音色の正確性の評価は再度実施されます。6dB の音量差が得られていないことは、通常音量と高音量の差を測定することで確認されます（スマートフォンまたは携帯型 SPL メーターを使用可能）。それでも 6dB の音量差が確保できない場合、合計 12 点を減点します（上記の各サブ項目につき 3 点）。音量上昇時にシステムが停止し音が出なくなった場合は、当該評価は 0 点とします。

4.6 リスニングの満足感

サウンドクオリティ審査員は、一定時間にわたり競技者のシステムを聴取した後、音楽がリスナーにもたらし楽しさ（リスニングの満足感）および音楽の音響的印象を総合的に評価します。この評価に特定のトラックは設定されおらず、リスニングの満足感はサウンドクオリティ審査全体を通じた審査員の聴取体験に基づいて判断されます。

4.7 システムのノイズ

適切に施工されたインストールでは、あらゆる音量レベルにおいてノイズが発生しないことが求められます。ここでいうノイズとは、EMMA 公式サウンドクオリティ音源に含まれていない音であり、車両の電装系またはオーディオシステムによって付加された音を指します。システム設定に関する指針として、ヘッドユニットはその可動範囲の大部分を使用できる状態であり、アンプがクリッピングに達しないように設定されている必要があります。ゲインが低すぎる場合、ヘッドユニットはアンプを最大出力まで駆動できません。一方、ゲインが高すぎる場合、ヘッドユニットの低い音量設定でもアンプがクリッピングを起こします。アンプは入力された信号をそのまま増幅します。信号ケーブルは音声信号だけでなく、グラウンドや内部部品などに起因するノイズも伝送します。ノイズレベル自体は一定ですが、音量を上げることで信号レベルが増加し、ノイズに対する信号の比率（S/N 比）が向上します。その結果、アンプはノイズも増幅しますが、信号レベルが十分に高くなるため、ノイズは相対的に認識されにくくなります。ゲイン設定が不適切なシステムでは、最大音量時にノイズトラック再生中にヒスノイズや静電ノイズが発生します。なお、この調整はアンプの出力そのものを変えるものではなく、最適な音質を得るために必要な入力信号レベルを設定するものです。システムノイズの確認はトラック 21 を使用して行います。オーディオシステムによって生成された、または付加されたノイズであり、EMMA 公式音源に記録されていない音が存在しないかを確認します。

発生し得るノイズの例として、ラッシュノイズ、ハムノイズ、ヒスノイズ、クラック音、フロアノイズ、パネルのビビリ音、過大なファン音、機械的ノイズ等が挙げられます。専用のノイズトラックでは検出されないものの、他の試験トラックでノイズが確認される場合には、それらのトラックも評価対象として考慮します。

ノイズ評価に関しては、以下の規定を適用します。

1. 各システムについて、現行の EMMA 公式メディアに収録されている「ゼロビットトラック」を用いてノイズの有無を確認します。また、通常の審査中にノイズが確認された場合も、減点の対象となります。
2. 審査員は、スコアシート上で減点対象となる各種ノイズについて、それぞれ個別に確認しなければなりません。
3. ノイズの可聴性は、通常の着座リスニングポジションにおいて判断します。
4. 審査員は、得点に影響を与えた要因について、スコアシートのコメント欄に簡潔に記録するものとします。
5. 審査員は、ノイズがシステム自体に起因するものであるかを慎重に判断しなければなりません。

4.8 システムの操作性

オーディオシステムは、車両走行時において快適性と安全性のバランスが取れていることが求められます。審査員は、運転席から混乱なく容易にオーディオシステムを操作できなければなりません。また、運転席から見た際に、関連するユーザー操作部（操作パネル等）の視認性および操作性が確保されていることが望まれます。利便性のために車室内に設置された CD チェンジャー、ハードディスク、USB 機器等については、本評価の対象外とし、減点要因とはなりません。審査員は、実際の走行を想定し、システムの操作が容易であること、ならびに運転への注意を妨げないことを重視して評価を行います。これらの条件に最も近いシステムが高評価となります。システム操作性の評価は、トラックの一時停止／ミュート、音量調整、トラック選択、早送り／巻き戻し操作、および表示の視認性・可読性に

限定して行います。盗難防止等を目的として操作部を覆うカバーやシールドがある場合は、それらを取り外した状態で評価を行い、操作性の評価には影響しないものとします。運転席に着座した審査員がオーディオシステムを操作し、前述のユーザー操作部および各種コントロールへのアクセスのしやすさ、および操作時の負担や注意の分散の程度を判断します。

1. 以下の項目を評価します。

- 視認性
- 操作性

注意事項:

- ステアリングホイール(リモート)コントロールが装備されている場合、すべての操舵位置で動作する必要はありませんが、少なくとも直進走行時の位置では確実に操作できなければなりません。
- リモートコントロールが装備されている場合、最低限、音量調整、トラック選択、一時停止／ミュートの機能を有していなければなりません。また、各ボタンには表示(ラベル)が付されているか、または操作方法を記載した説明が審査員に提供されている必要があります。
- 審査中に使用される音量コントロールは、本項目において評価対象とします。
- モバイルデバイスを用いてシステムを操作する場合、審査中に画面がロックされないようにする必要があります。国内イベントにおいて審査中にロックが発生した場合、審査員は競技者に調整を求めることができ、その対応は許容される 5 分間の修理時間の一部として扱われます。国内決勝およびユーロファイナル、ならびに事前ブリーフィングにおいて周知されている場合には、3 点を減点します。

4.9 視界制限

サウンドクオリティ審査員は、ダッシュボード、ピラー、ドアへのインストールにより、フロントガラスおよび左右の前方サイドウィンドウからの視界が制限されていないかを確認します。審査員は指定されたリスニングポジションに着座し、オーディオシステムのインストールが視界に干渉していないかを確認します。インストールにより道路または側方の視界(車両自体ではなく)が制限されている場合、または判断が困難な場合には、以下に定める手順に従って審査員が測定を行います。

注意事項:

A ピラーおよびフロントドアに設けられた三角窓については、サイドウィンドウの高さおよび長さの半分を超えない範囲であれば、当該三角窓の視界は評価対象外とします。

サイドミラーの視認性は確保されていなければなりません(助手席側ミラーが装備されていない場合は、ルームミラーにより後方視界が確保されている必要があります)。

視界または操作性が制限されている場合、審査員は該当状況ごとに 3 点を減点します(最大 6 点まで)。

許容範囲:

フロントガラスの見える側面の縁に平行に測定して最大 4cm(車種により異なります。例: 黒塗り部分の端／中央に向かって点がある部分、クロームトリムなど)、フロントガラスの平面に沿って



フロントガラスの上下最大 4cm(地面に対して垂直に測定)から、フロントガラスの見える境界線までの距離(車種によって異なり、例えば、黒く塗りつぶされた部分の端、中央に向かうドット、クロームトリムなど)。角の部分には湾曲した部分があることに注意してください

暗色で示した領域には何もインストールしてはいけません。(X 無制限クラスには適応されません)
また、サイドミラーへの視界は確保されていなければなりません。(助手席側サイドミラーが取り付けされていない場合、リアミラーは背後全体を見渡せなければなりません)

5 全般的なコンペティションのルールと手順

5.1 全般

個別品目に対する総則として、本ルールブックに具体的な記述または説明がない品目については、EMMA ルールまたは国際ヘッドジャッジ協議会が別段の規定を定めるまでその品目は違法と判断します。ルール、方針、手順については、カーオーディオ産業の発展に応じて修正を行います。ルールブックへの追加は JCACA ホームページ (www.jcaca.or.jp) に発表すると共に、冊子版のルールブックにおいても該当項目の入れ替えまたは明確化を行います。いずれの場合も、追加として記述し更新した項目は、更新した冊子版のルールブックでそれとして明示し、発行日から効力を持つものとします。

以下に示す方針、手順、ルールは、EMMA 公認イベントに参加するすべてのコンペ参加者、役員、ジャッジの助けとなるように制定したものです。このルールとガイドラインは、数多くのメーカー、小売業者、コンペ参加者が、公平で偏りのない審査基準を作るという目的のため多大の時間をかけて調査を行い、完成したものです。イベント中に発生し得るすべての問題や問題の組み合わせを予見することは不可能ですが、何らかの問題や懸念が発生した際、それへの対応はヘッドジャッジ、イベントディレクター、EMMA 審査委員会の判断にゆだねるものとします。

国際イベントにおけるすべてのコミュニケーションは英語で行うものとします。この規定は、それが車両の展示と抗議のいずれであれ、書面、言明、その他のいずれの形式であれ、すべてのコミュニケーションに適用されます。必要な場合、コンペ参加者は通訳を利用することができます。ただし通訳の利用や用意はすべてコンペ参加者が責任を負わなければなりません。

ルールブックに関する問題や懸念が生じた場合、イベントのヘッドジャッジまたはイベントディレクターが問題処理のためその概要を EMMA 事務局に伝え、さらに、再検討と措置を講じるため国際ヘッドジャッジ協議会に伝えるものとします。

イベント当日に発生したジャッジをめぐるトラブルについては、ヘッドジャッジまたはイベントディレクターがそれを解決しなければならず、その情報をつねに全員に周知すると共に、適切な行動が取れるようにシステムをチェックしなければなりません。ヘッドジャッジが解決したトラブルは EMMA 事務局に伝えるものとします。

ルールに関する修正を行うことができるのは、現場にいる EMMA 公認ヘッドジャッジならびに国際ヘッドジャッジ協議会だけです。ルールについての追加項目は JCACA の公式ホームページ (www.jcaca.or.jp) に発表します。

以上の総則は、EMMA のルールに基づき開催されるすべてのコンペティションに適用されます。

5.2 登録

1. いずれの法人も EMMA イベントに参加することができます。これに該当するのは男性または女性と、一体となって行動できる人間グループまたは法人です。協会、財団、組織、企業などもこれに該当します。これは決して一人の人だけを意味するわけではありません。ルールブックの他の箇所では、これに該当する人をコンペ参加者と呼びます。
2. コンペティションにエントリーする車両は(一時的にせよ)登録を行い、走行許可を得る必要(X クラス除く)があります。車両はそれ自体のエンジンで走行できなければなりません。
3. 車両は所有者の名前または商号で登録するか、あるいは要求されればコンペ参加者が車両の主な利用者であることを証明できなければなりません。
4. 州または国内の法律要件にかかわらず、車両に関する有効な登録証や権限証明書、あるいはその FAX を、要求があれば提出し車両の所有権を証明することができなければなりません。
5. コンペティションのために登録した車両は、(コンペティションの重要部分を担う)審査プロセスに提示し使用できなければなりません。さもないと登録は無効になります。
6. 参加者、車両、モバイルメディアシステムに関するエントリー登録情報に改竄や虚偽があった場合、ただちに資格喪失となることがあります。これに該当した者は、コンペティションシーズンの残りについて国内団体または EMMA からコンペ参加が禁止されることもあります。
7. コンペ参加者登録書式に対し、以下の詳細な項目を、事前にインターネット経由で、あるいはコンペ当日に手書きで、すべて記入しなければなりません。(国内団体によってはインターネット経由の登録しか受け付けないところもあります)
 - フルネーム
 - イベント当日連絡の取れる(携帯)電話番号と可能であれば電子メールアドレス
 - 車両がコンペに参加するカテゴリとクラス
 - 車両情報や取り付けた部品全てのメーカー
 - イベントの日付と場所(登録書式はイベントごとに別々に記入しなければなりません)
8. 登録料はイベント開始前までに運営団体に現金で支払わなければなりません。金額は国内団体のルールによって異なります。場合によっては参加確認のため、コンペ参加者がイベントに先立って運営団体の口座に電信送金することが求められることもあります。
9. コンペ参加者は 1 つのイベントで同一車両にて 1 つのカテゴリにエントリーすることができます：
 - C
 - E
 - S
 - M
 - X
10. コンペ参加者は 1 つのイベントで複数の車両をエントリーすることができます。資格取得ポイントは、参加したカテゴリ/クラスのコンペ参加車両にのみ与えられます。

5.3 エントリー条件

- カテゴリとカーオーディオシステムの総額によってコンペ参加者を分けます。詳しくは「カテゴリとクラス」の項目を参照して下さい。
- 全ての車両は公道で走行するために法的に登録されていなければなりません(X 無制限除く)
- 全ての車両は独自のエンジン(ガソリン、ディーゼル、電気、燃料電池など)で競技エリアに移動しなくてはなりません。
- 音質またはマルチメディア体験の審査では、車両は以下の状態で審査されます。
 - a. ドアは閉めている
 - b. 窓は閉めている
 - c. ルーフは閉めている(コンバーチブルトップおよびサンルーフを含む)
 - d. マルチメディアの音質および映像審査時を除き、窓に外光を遮るブラインドやカバーは使用しない
- コンペ参加者は、インストールし有効なすべての部品に応じたクラスに登録しなければなりません。カーオーディオシステムの総額や登録時に申告したユニットに不一致のあることが審査終了後に明らかになった場合、コンペ参加者は失格となることがあります。
- オーディオシステムはプロによってインストールできます(全てのクラスに適用されるルール)。

- 幹線(たとえば 100～240V)用に生産された装置の使用とインストールは、それが他の装置のためである場合に限り許されますが、SQ 審査中にそれを利用することはできません(たとえば何らかの種類のソースユニット、処理装置、アンプ、ディスプレイなど)。
- イベントのジャッジ担当者であっても、自身の車両でコンペに参加することはできませんが、同じカテゴリ/クラスでジャッジを下すことはできません。
- ヘッドジャッジ/イベントディレクターも、その任にあるイベントでコンペに参加することができます。その場合、自身が参加するクラスについての権限はその資格を持つ他のジャッジに譲らなければなりません。
- ヘッドジャッジ/イベントディレクターは、自身が監督するイベントに出場することができます。この場合、出場するクラスに関する法的権限は、別の資格を有する(主任)審査員に委譲されます。
- プロフェッショナルとは、オーディオ機器メーカー、カーオーディオ関連資料の出版社、小売業者、またはモバイルエレクトロニクスおよび関連雑誌のその他の代表者と関係がある、雇用されている、またはその他の形で提携している、および/またはこれらの企業から財政的支援やその他の報酬を受けている者を指します。
- 分類規則に基づく審査員とは、カーオーディオ関連団体または統括団体の現役審査員を指します。

5.4 コンペティション当日について

1. コンペ参加者は、発表された時刻(たとえば 9:00。この時刻は例であり、異なる場合があります)までに搬入を済ませなければなりません。その時刻から 30 分後(たとえば 9:30)までに搬入を行わない場合、(ヘッドジャッジ/イベントディレクターが署名する)スコアシートから 10 ポイントが差し引かれます。60 分後までは、当該カテゴリ/クラスの他のコンペ参加者が同意すればコンペティションに参加することができます。他のコンペ参加者のうち一人でも、遅れての参加に異議を唱える者がいればコンペティションに参加することはできません。異議を唱えるコンペ参加者は合理的な説明を提示しなければなりません(たとえば遅刻者の方が自分よりも成績がいいかもしれないから、というのでは十分な理由にはならず、合理的な説明ではありません)。
2. すべての車両はそれ自体のエンジンで審査エリアまで走行しなければなりません。イベントまでの移動途中に車両にエンジントラブルが発生した場合、ポイントを差し引くかどうかの判断をヘッドジャッジまたはイベントディレクターが下します。エンジントラブルが発生した場合、運営団体にできる限りすみやかに連絡しなければなりません。審査エリアは、イベント内の指定区域(たとえば第 5 ホール)で行い、場合に寄っては他の審査エリアへ移動しなければなりません。
3. 登録後、コンペ参加車両は指定区域内に駐車しなければならず、運営団体/スタッフの指示に従ってください。
4. 審査エリアに進入する車両には、その車両を登録した人や運転助手(3名以上は不可)が随行しなければなりません。コンペ参加者と運転助手は、審査エリア内に入ればジャッジ、ヘッドジャッジ、運営団体役員のすべての指示に従わなければなりません。
5. 審査プロセスを開始する前にヘッドジャッジが概要説明(エントラントミーティング)を行いますので、ジャッジとコンペ参加者はそれに必ず出席してください。2 日間にわたる EMMA イベントの場合は、どのクラスをどちらの日に開始するかは主催者/国内団体が決定します。その情報は国内団体または国際団体のウェブサイト事前に発表します。
6. ジャッジが審査を開始する場合、その日の最初のコンペ参加者に合図し、5 分以内に車両審査の準備をしなければなりません。タイムスケジュールを使用している場合には、車両は所定時刻の 1 時間前もしくは審査開始の 2 台前までに審査の準備が整っていなければなりません。審査開始時に準備が整っていなければ(もしくは車両付近に居ない)場合は、10 ポイント減点される場合があります。
7. 審査開始前に、競技者はシステムの設定を確認する必要があります。適切な DSP 設定、すべてのスピーカーが正常に動作することなどを確認するのは競技者の責任です。システムは、これらの条件を満たした状態で一度だけ審査されます。
8. コンペ参加者が機器の誤動作や操作ミスによってスコアに疑問が生じたと感じた場合は、審査員に知らせる権利があります。再審査が許可されるかどうかは、ヘッドジャッジもしくはイベントディレクターに任されます。
9. 審査員は自身がコンペに登録している車両以外は調整や準備をすることは認められていません。発覚した場合は、審査員自身がコンペに登録している車両及びコンペ参加者も含めて 10 ポイント減点されます。
10. 通常は 1 名のジャッジしか割り当てないカテゴリでセカンドジャッジ/助手席側ジャッジを割り当てるかどうかは主催者が決定します。
11. インストールからサウンド審査までの間にインストールした装置を変更することは許されません(すなわちカバーを取り除く、減衰装置を取り付ける、グリルを取り外すなど)。この規定に違反した場合、問題をヘッドジャッジが審査したのち、当該のインストール欄に 0 ポイントが記載される場合があります。
12. イベントによってはプレステージングが必要な場合があります。

- a. プレステージング中、担当のイベント実行委員がスコアシートの登録内容やコンペ参加者情報の欄をチェックします。その際、登録したカテゴリとクラスもチェックします。コンペ参加者のカテゴリとクラスについて疑念が生じた場合、そのイベントに限って適切なカテゴリ/クラスを決定するのはヘッドジャッジの責任です。
 - b. 正式な検査員または指名されたインストールジャッジは、各コンペ参加者の車両を検査し、車両情報またはシステムの説明として提供された情報を検証することができます。
 - c. この検査手順中、スタッフは提出されたコンペ参加者の装置リストまたはカーオーディオシステムの総額を確認するためであれば、オーディオシステム装置または車両の構成要素を分解するようコンペ参加者に要求できる権利を保持しています。時間的制約やその他の斟酌すべき事情によりプレステージング中にシステム/車両の検査を行うことができない場合、装置の審査中、あるいは審査プロセス後に検査を行うことができるものとします。この検査に応じない場合、獲得したすべての賞を没収し、失格とします。いかなる場合についても、ヘッドジャッジ、EMMA スーパーバイザー、EMMA 審査委員会、EMMA 理事の判断が最終のものとなります。
 - d. 分解中にサウンドシステムまたは車両に損害が発生した場合、ただちにヘッドジャッジまたはイベントディレクターに報告するようにしてください。
- 13. イベント中に発生した損害やシステム故障に対し EMMA が責任を負うことはありません。
 - 14. 同一得点だった場合、SQ 審査のスコアが高い方、更に同一だった場合、音色の正確性とスペクトルバランスが高い方、更に同一だった場合、リスニングの満足感が高い方が上位となります。それでも同点の場合は、両者とも同じ順位となる。

5.5 イベントの種類

すべての EMMA 公認イベントについて:

本ルールブックと適切なメディア、あるいは提供されたオーディオファイル以外を使用してはなりません。

5.5.1 地方イベント

地方イベントは、小売業者、メーカー、他の公認団体が開催することができます。地方イベントの際、少なくとも 1 名の正式なジャッジがいなければなりません。地方イベントでは毎年国内ファイナル参加資格を取得することができます。コンペ参加者が、国際的なコミュニティという発想から、EMMA 非加盟の国でコンペティション参加を開始することは大歓迎です。そうした参加者に対しては、コンペ参加の資格ポイントを与えます。

5.5.2 国内イベント

国内イベント(例;ファイナル)は、EMMA に加盟する国内団体あるいは EMMA 自体しか開催できません。国内ファイナルは EMMA 事務局の正式許可がなければ開催できません。国内ファイナルの参加者は地方イベント/国際イベントで参加資格を取得する必要があります。シーズン中に獲得した資格ポイントの上位 10 名にファイナルへの参加資格を与える方法を提案しています。

「外国の」コンペ参加者が国内ファイナルの参加資格を取得した場合、国内ファイナルで優勝することはできますが、母国以外の国での国内チャンピオンになることはできません。外国の国内ファイナルに優勝した参加者は、欧州ファイナルへの参加資格を得ることができ(国内団体がそれを認めることが条件です)、その場合、優勝した国での参加を認めます。国内ファイナルには、公認ヘッドジャッジチームと正式な EMMA イベントディレクター 1 名が必要です。

5.5.3 インターナショナルイベント

インターナショナルチャンピオンシップは EMMA インターナショナル事務局の許可がなければ開催できません。EMMA は主催者である国内団体と協力を深め、責任をもってイベントディレクター、ヘッドジャッジ、ジャッジチーム全体を派遣します。

インターナショナルチャンピオンシップ(例;ユーロファイナル)の参加者は事前に参加資格を取得する必要があり、資格を取得したのと同じカテゴリ/クラスで参加を開始しなければなりません。参加資格の取得は、国内団体開催のファイナルで第 1 位となるか、あるいはファイナルの開催がインターナショナルチャンピオンシップの直近または以降である場合には、国内ポイント表で最上位の参加者として選出されるかのどちらかです。1 ヶ国当たりの最大コンペ参加者数は、インターナショナルチャンピオンシップの遅くとも 3 ヶ月前にまでに発表します。いずれの場合にせよ、国内団体は EMMA がインターナショナルチャンピオンシップを開催できるように、遅くとも 2 週間前までに参加者のデータをノミネートすることが必要です。それを保証するのは国内団体の責任です。

サウンドクオリティの国内及び国際イベントについての注意点

同クラスに 14 人以上のコンペティターがいる場合、2つのグループに分けてそれぞれ上位 3 台を別のジャッジが審査して順位を決定することが出来ます。もしくは同じジャッジが2日間に分けて審査し、次の日に上位 6 台を選出して

別のジャッジが審査します。

5.5.4 資格ポイント

国内ファイナルの資格取得については、以下のポイントが、コンペを行った車両およびカテゴリ/クラスに関するポイントとしてコンペ参加者のアカウントに与えられます。

第 1 位	10 ポイント
第 2 位	8 ポイント
第 3 位	6 ポイント
第 4 位	5 ポイント
第 5 位	4 ポイント
第 6 位	3 ポイント
第 7 位	2 ポイント
第 8 位	1 ポイント

注意: 資格ポイントは、人・車両・クラスの組み合わせに対して与えられるものです。この組み合わせに変更があればそのポイントは無効となります。

イベントで獲得したポイントは蓄積し、多くの場合、各国の EMMA 公式ウェブサイトに表示されます。

5.5.5 ワイルドカード

どこの EMMA 競技団体も年間3つのワイルドカードが与えられます。年間 5 つ以上の国内イベントを開催した場合、イベント回数ごとにワイルドカードは与えられます。インターナショナルサイトに登録されたイベントで開催 14 日前までに登録があったものをカウントします。1 つの国から 1 クラス最大 3 人、ヨーロッパ大陸のファイナルに参加することが出来ます。ワイルドカードを受けるコンペティターは少なくとも国内イベントで 1 回はコンテストに参加してなければなりません。ワイルドカードは国ごとに最大 12 枚です。自国以外からのヨーロッパ大陸へのエントリーは認められません。EMMA のイベントが無い国では更なるワイルドカードが与える事があります。全てのワイルドカードには EMMA 本部の認可が必要です。

5.6 エチケット

1. EMMA のヘッドジャッジ/イベントディレクターあるいは公認された正式実行委員以外の者がコンペティション中にスコアシートやジャッジのセーフティーシートのスコアを見ることはできません。
2. コンペ参加者は自身のインストールスコアシートを見てジャッジの説明を受けることができ、そのために最大で 5 分の時間が与えられます。スコアのつけ方に対し意見を差し挟むことはできません。コンペ参加者はインストール審査の説明を受けた後スコアシートに署名します。
3. ファイナル以外のイベントでは、コンペ参加者は自身の SQ スコアシートを見てジャッジの説明を受けることができ、そのために最大で 5 分の時間が与えられます。スコアのつけ方に対し意見を差し挟むことはできません。コンペ参加者はこの場合、SQ 審査の説明を受けた後スコアシートに署名します。ファイナルではスコアの説明は無く、サインも求められません。
4. コンペ参加者はスコアシートに署名を行うことでスコアを受け入れたことになり、抗議を表明する権利のすべてを放棄したことになります。
5. 説明中、競技者本人以外にスコアシートを閲覧する者がいないことを確認するのは、審査員と競技者の責任です。他の選手のスコアシートを見ようとした者(または他人に見させた者)は、5 点減点の罰則を受ける可能性があります。
6. 審査員は、競技者からの要請があった場合でも、以下の点についてはコメントしません。設置されているスピーカーの位置と角度、オーディオシステムのサウンド設定、使用されているブランド。
7. ファイナルでは、SQ スコアリングの説明は行われず、競技者はスコアシートへの署名を求められません。
8. さらに、署名済みのスコアシートは EMMA と競技者間の契約であり、(不履行の場合)イベントディレクターの承認(署名)を得た上で、主任審査員と競技者の間で署名することによってのみ変更できます。
9. 競技者が国内または国際大会においてスコアシートへの署名を求められたにもかかわらず署名を拒否した場合、車両は施錠され、ヘッドジャッジに報告されます。

原則として、競技者は以下の 3 つの選択肢があります。

- a. (求められた場合)スコアシートに署名する、

- b. 異議申し立てを行う、
- c. 競技から棄権する。

必要に応じて、主任審査員が状況を確認するために呼び出されます。ご希望があれば、ヘッドジャッジから簡単な抗議用紙をお渡しいたします。

10. トロフィー授与以前のどの時点であっても、コンペ参加者やジャッジは他のコンペ参加者との間で、他の車両やシステムの実際のスコアについての意見交換を行ってはなりません。
11. 車両の審査後、コンペ参加者は要請されればすみやかに審査区域から退出しなければなりません。
12. イベント中に不正行為が発覚したコンペ参加者は、失格となります。EMMA 事務局と EMMA 審査委員会は(たとえイベントが終了した後であっても)不正行為について再協議する場合があります。
13. 規則違反や不正行為を繰り返し行った場合、EMMA 公認イベントで取得し蓄積したポイントの全部または一部が取り消しになることや、今後全ての EMMA 公認イベントへの参加資格が認められなくなることがあります。極端な事例では、EMMA 事務局が不正行為を行ったコンペ参加者の名前を公表することもあります。
14. コンペ参加者やジャッジに対する罵倒や侮辱行為は許されるものではなく、イベントの失格ならびに賠償としてイベント登録料の没収となる場合があります。
15. 審査過程を妨害した者は、審査委員長／イベントディレクターの裁量により 5 点減点されるか、イベントから除外される場合があります(チームリーダーなどもこれに含まれます)。
16. 下品または不適切な品行を行ったコンペ参加者は、ヘッドジャッジ/イベントディレクターによってイベントから排除される場合があります。深刻な事例では当該の EMMA 国内団体が開催するその年または将来の全てのコンペティションから排除されることもあります。最悪の事例では EMMA 本部があらゆる EMMA コンペティションへの参加を禁止することがあります。
17. イベント中すべてのアラームシステムをオフにしておかなければなりません。アラームシステムが発動し、コンペ参加者はただちにアラームシステムをオフにしなかった場合、ヘッドジャッジが 5 ポイント剥奪することがあります。
18. EMMA コンペティションでは騒音を発生させる行為は禁止されており、発生させた場合、コンペ参加者はただちに参加資格を失います。
19. コンペ参加者はジャッジに対し以下を期待することができます。
 - ・ コンペ参加者に対し礼儀正しいこと。
 - ・ EMMA 公認の服装をしていること。
 - ・ 全てのコンペ参加者に対し公平で偏りのない評価を下すこと。
 - ・ 適切な教育を受けた上でジャッジになったこと。
 - ・ システムを改善するにはどうすればよいかのヒントをコンペ参加者に与えること。

5.7 抗議について

1. スコアの定義は、スコアシートに記載されたポイント、というものです。これには客観的な測定と同時に主観的な見解も含まれます。コンペ参加者が、ジャッジが意図的ないし非意図的に不適切なスコアや現行ルールブックの意図する解釈に反したスコアを記入したと感じた場合、コンペ参加者はそのスコアに対し抗議を行うことができます。ただし些末な抗議を防ぐため、コンペ参加者は抗議を行うことで 30 ポイントを失うリスクを負い、実際のスコアシートからこの 30 ポイントが差し引かれます。スコアが不適切であったと判断された場合、差し引かれたポイントが抗議を行ったコンペ参加者に返却されます。スコアが適切であった判断された場合、抗議を行ったコンペ参加者はスコアから 30 ポイントを失います。
2. コンペ参加者は、あるジャッジが主観的な審査を下しているとの抗議を提出した場合、その問題を解決できるのは当該ジャッジ本人だけであることを理解する必要があります。確認しなければならないのは、記載したスコアに当該のジャッジが自信を持っているかどうか、そしてルール of の記述と解釈を当該ジャッジが完全に理解しているかどうかという点です。主観的な審査という項目のスコアに対し、別のジャッジやヘッドジャッジが審査のやり直しやスコアの修正を行うことはできません。ヘッドジャッジが不適切なスコアを発見した場合、ヘッドジャッジが適切な措置を講じます。審査をやり直す場合も、インストール部門における明白な項目、たとえば装置のゆるみや不適切なヒューズについて、あるいはノイズといったサウンド/ピクチャー部門における明白な項目については、変更することはありません。再審査の前にコンペ参加者の誰かがその点を修正し、本来のプロセスとは別物にしている可能性があるからです。
3. コンペ参加者は他のコンペ参加者のフェアプレイに疑問を呈することもできます。これにはカーオーディオシステムのユニットの不適切な総額やコンペ参加者のカテゴリ分け、不正行為やコンペ参加者に関する情報偽装などの疑いが含まれます。こうした疑問が提示された場合、抗議を受けたコンペ参加者の車両の分解や客観的な主観的な再試験を行うことがあります。このような疑問の提示は、イベント会場でイベント当日にしか行うこ

とができません。コンペ参加者が他のコンペ参加者の車両に疑問を提示し、ヘッドジャッジ/イベントディレクターが検証には分解または客観的主観的な再試験を行う必要があると判断した場合、抗議を行うコンペ参加者はその疑問提示に実際のスコア 30 ポイントを賭さなければなりません。抗議を受けた車両にルール違反が発見されれば、30 ポイントは疑問を提示したコンペ参加者に返却され、違反に対し適切な措置が講じられます。一方、ルール違反が発見されなかった場合、抗議を行ったコンペ参加者は実際のスコアから 30 ポイントを失います。

4. 抗議を要求できるのは、当該イベントに登録している同一クラスのコンペ参加者だけです。コンペ参加者以外の者やチームリーダーが登録済みのコンペ参加者の代理として抗議を行った場合や抗議しようとした場合、ヘッドジャッジまたはイベントジャッジの判断により、その抗議者ならびに抗議者が代理しているコンペ参加者(チーム)をコンテストから排除することがあります。

5.8 抗議の要求手順

1. コンペ参加者は、自身が不適切だと感じるスコアがあれば、審査プロセスの直後にジャッジに指摘しなければなりません。ジャッジはヘッドジャッジまたは指名されたコントロールジャッジに連絡します。ヘッド(コントロール)ジャッジが抗議の根拠(スコアに対する論理的分析)に納得すれば、ヘッドジャッジはコンペ参加者に抗議の提出を許可することができます。この許可がない限り、いかなる抗議も提出することはできません。
2. 正式な抗議は書面でなければならず、またヘッドジャッジによる適切なポイントの差し引きを含みます。コンペ参加者は何に抗議しているかを記述すると共に、本ルールブックに基づきスコアはどうあるべきかの自身の意見も記載します。「スコアが低すぎるから」という理由での抗議提出は受け付けません。正式な抗議はヘッドジャッジに提出します。正式な抗議書式のみを使用し、審査終了から 30 分以内にヘッドジャッジまたはイベントディレクターに手渡さなければなりません。
3. ヘッドジャッジは関係するジャッジチームおよび第二ヘッドジャッジと抗議について協議しなければなりません。二人のヘッドジャッジでも解決策が見出せない場合、イベントディレクターが抗議に関する判断を下します。イベントディレクターは実際のジャッジでなければなりません。そうでない場合、担当のジャッジチームにいる有経験のジャッジに判断を仰ぎ、その記録を EMMA 審査委員会に提出します。
4. コンテストにおける抗議については、ヘッドジャッジ/イベントディレクターが判断を下します。ヘッドジャッジ/イベントディレクターの判断は最終のものであり、それに基づいて表彰式を行います。
5. コンペ参加者には自身の抗議を EMMA 事務局に送付する権利があります。EMMA 事務局は抗議を EMMA 審査委員会に転送します。EMMA 審査委員会はヘッドジャッジ/イベントディレクターの判断を再検討することはできますが、いかなる形にせよ結果を変更することはできません。
6. 抗議を求める要求は、当該クラスの審査が下された当日、表彰式が始まる少なくとも 4 時間前までに提出しなければなりません。

5.9 インストールクオリティの審査中の手順とルール

1. 詳細な写真記録を保存しておく、検査プロセスやインストール審査におけるシステムのプレゼンテーションに役立つほか、インストールジャッジの質問の多くに答えることが容易になります。
2. インストールクオリティの審査プロセスは、システムのプレゼンテーションから始まります。サウンドシステムのインストールをジャッジに説明するのは、登録した所有者/メイン利用者の責任です。説明がない場合、ジャッジはシステムのプレゼンテーションを 0 ポイントとします。
3. 競技者は、システム、設置状況、アイデアについて説明し、車両のモバイル電子機器設置における特別な要素を指摘するために、最大 7 分間が与えられます。通訳が必要な場合でも、時間は延長されません。この場合、競技者は母国語でのみ話すことができます。ただし、X 無制限クラスは例外で、プレゼンテーション(「システムの説明」)の時間は最大 15 分です。
4. 審査員は、「システムの説明」の開始時間を競技者に丁寧に通知します。審査員はプレゼンテーション時間中、競技者の発言を決して妨害しません。審査員は時間切れになったことを競技者に丁寧に伝え、プレゼンテーションを直ちに中止することができます。
5. コンペ参加者は、インストールが SQ の際と同じ状態であるかが丁寧に尋ねられます(変更は許されていません)。イエスまたはノーの答えをインストールシートのチェックボックスに記入します。これを怠ると、ヘッドジャッジによる問題審査ののちにインストールに関する該当項目が 0 ポイントとなることがあります。
6. コンペ参加者は審査プロセスが完了するまで車両の近くにいないなければなりません。コンペ参加者は質問に答えるよう求められた時やシステム要素について説明するよう求められた時を除き、審査プロセスを邪魔したり中断させたりしてはいけません。

7. ジャッジは確実な取り付けを審査する際に必要以上に力を加えてはなりません。どのような重さのコンポーネントが装着されているか次第です。(例; A ピラーのツイーターはトランクのサブウーファーボックスと同じように固定されていないかでも良い)
8. コンポーネントが確実に固定されていればその固定方法は重要ではありません。(例; 木のプレートにネジで固定されている、板金に溶接されている) OEM ヒューズやアフターマーケットコンポーネントの純正ヒューズは、製造元が予期していない場合、特別な固定は必要ありません。
9. 取外し出来るヘッドユニットは多少のあそびがあるかもしれませんが、もしそうであればその部分を取り外して他の部分で審査します。
10. 外部デバイス: EMMA の審査に使用するレコーディングを再生できるデバイスが装着されてあったとしても電源が OFF の状態もしくは、接続を外している場合は審査の対象になりません。これはコンペ参加者によって証明する必要があります。またリアシートエンターテイメントにも同じルールを適用します。
11. 純正パネルにコンポーネントが装着されていて、そのパネルが確実に固定されていなかった場合減点の対象となります。(例; ツイーターを固定しているパネルのクリップが少し浮いていた)
12. コンポーネントが装着されていないグリルやその他の保護に使用している要素やカバーは確実な固定では審査しません。
13. ソースユニットやアンプによって駆動されるスピーカーを含む全ての再生機器は審査員によって審査されます。
14. 3cm 未満の隙間の保護バーは減点の対象にはなりません。
15. グリルクロスなどを張りつめた状態で取り付けするだけではスピーカーの保護としては認められず減点の対象になります。
16. スピーカーがエンクロージャーの中に取り付けされていて触ることが出来ないものや、エンクロージャーの外向きにバスケットが見える取り付けではスピーカーの保護が必要ありません。
17. グリル状の硬質膜を備え、サラウンドが覆われていてアクセスできないスピーカーもありますが、これも許容範囲内であり、追加の保護は必要ありません。

5.10 音楽の再生

EMMAは審査に使用する全てのオーディオトラックをデジタルフォーマットでのみ提供し、WEB ショップ (<https://emmanetshop.com/>) からダウンロードする事ができます。すべての競技者がダウンロードしなければならないオーディオトラックには、wav や mp3 などの高解像度フォーマットが含まれます。どのファイルを競技に使用するかは、競技者次第です。審査員がオリジナルのオーディオトラックを審査に使用できるように、各競技者はオーディオシステムへのハードウェア接続を要求された場合には対応しなければならない。これは、オリジナルデータを使用することにより、競技車両間の公正な行為を予防するものである。さらに、国内および国際決勝大会に参加するすべての競技者は、競技に使用するファイルの法的認可の証明を提示できなければならない。これは、EMMA公式WEB ショップのダウンロードと同時に受け取る領収書のコピーを提示することで可能です。修正またはコピーされたファイルを使用する競技者は、EMMAが認可したいかなる競技会からも即座に追放される可能性があります。

注意: 全てのEMMAの楽曲は EMMA GmbH の著作権下にあり、許可なく複製することは違法です。

もし、審査用のファイルを競技者の端末に読み込む必要がある場合は、EMMAの公式ジャッジまたは審査員の立会いのもと、競技者のストレージデバイスにファイルを読み込まなければならない。競技者は、登録手続きの際にこの情報を提供する必要があります。EMMAのスタッフは、USB、SD、ラップトップなどの様々なハードウェアを提供します。その他の必要な部品はすべて競技者が持参すること。EMMAは、審査が終了するまで、ストレージデバイスを保管することができる。EMMAは紛失や破損の責任を負わないものとします。

審査のためにメディアのストリーミングを許可しています。ストリーミング機器は車内に固定する必要はありませんが(トラックを操作するために使用しない場合)、審査員がストリーミング機器を操作する機器は車内に固定する必要があります。

ヘッドユニットは、以下の要素で構成されます。

操作パネル

システムを操作する装置。操作パネルは、手の届く範囲に車内に設置する必要があります。操作パネルは操作しやすく、運転の妨げにならないものでなければなりません。携帯型デバイスを操作パネルとして使用することも可能です。その場合、競技者は、運転中に使用できるよう携帯型デバイスを安全に固定できることを証明する必要があります。これは、EMMA がサウンドクオリティ&マルチメディア部門で車両を評価する際の基準となります。ESPL、

ESQL、EMMA チューニング部門では、競技者は携帯型デバイスを固定できることを証明する必要があります。

例：

- スマートフォンなどを使用する場合は、ストレージデバイスも操作パネルとして使用できます。
- 他のデバイスをリモート操作する純正ヘッドユニットも操作パネルとして使用できます。
- ステアリングホイールのノブも操作パネルとして使用できます。

操作パネルは、予算制限のあるカテゴリーでは、その価値も考慮されます。

ディスプレイ

審査に関連するあらゆる情報（音量、トラック、時間など）を表示するデバイス。ディスプレイは、ドライバーの視界内に設置する必要があります。携帯型デバイスがストレージデバイス、ディスプレイ、操作パネルを兼ねる場合もあります。その場合、競技者は、運転中に使用できるよう携帯型デバイスが安全に取り付けられることを証明しなければなりません。これは、サウンドクオリティ&マルチメディア部門において EMMA が車両を審査する際の基準となります。ESPL、ESQL、EMMA チューニング部門では、競技者は携帯型デバイスが固定可能であることを証明しなければなりません。

例：

- スマートフォンのディスプレイ、
- 専用の独立型ディスプレイ、
- アフターマーケットのヘッドユニット、
- 他のデバイスをリモート操作する純正ヘッドユニット

ディスプレイは、賞金が制限される部門では、その価値に基づいて評価されます。操作パネルと一体化されている場合は、その価値は一度だけ評価されます。

リモコン：

- 上記操作パネルに加えて、追加の操作パネル

例えば、ステアリングホイールのノブを使ってシステムを操作する場合、これはリモコンではなく操作パネルとなります。

リモコンは設置する必要はありません。審査員に手渡して使用・操作の便宜を図ることができます。その場合、システム操作または設置に関する審査では、リモコンは採点対象となりません。また、賞金が制限されるカテゴリーにおいても、リモコンの価値は評価されません。

競技者がシステム操作または設置に関する審査で追加点を希望する場合は、リモコンを設置する必要があり、該当する場合は賞金が制限されるカテゴリーにおいて、リモコンの価値が評価対象となります。

5.11 価格制限クラス

カテゴリによっては価格制限クラスがあります。コンペ参加者が EMMA バリューデータベースを活用して、適正なカテゴリで出場を開始できるようにすることは、各国内団体の責任です。

システムの総額は、(たとえ中古品を使用している場合でも)メーカーの希望小売価格の総合計(税抜)であり、すべての電子材料(ソースユニット、プロセッサ、アクティブクロスオーバー、アンプ、レギュレータ(純正除く)、すべてのスピーカーなど)を含みます。(※但し審査プロセスに使用する電子材料のみ)競技車両がメディアを再生する為に使用する全てのデバイスがシステムの総額にカウントされます。再生と操作に使用するデバイスもカウントされます。選曲などの操作を必要としない USB スティックや SD カード、ハードディスクドライブなどのストレージとしてシステム総額にカウントされません。取り付け材料(ケーブル、取り付けボード、パッシブクロスオーバー、ヒューズブロック、バッテリー、キャパシターなど)はいずれも総額に含まれません。コンペ参加者が製品を通常より安価に購入したかどうかや、中古品で購入したかどうかは問題ではありません。

平等な基準を設けるため、EMMA はコンポーネントのバリューを定めたデータベースを使用しています。国内及び国際イベントでの正確な計算と証明するための書類(EMMA Value Sheet)作成をサポートしています。データベースに商品の登録が無い場合は JCACA サイトのお問い合わせ受付より、①ブランド名、②モデル名、③分類(アンプやスピーカー等)、④標準小売価格、⑤価格証明のリンク先(WEB アドレス等)の 5 点をお知らせください。インターナシ

ナルファイナルで使用する装置については、詳細な説明を記述しイベント前の認証および確認のためEMMAに送付しなければなりません。EMMA Value Sheet はジャッジに示されなければなりません。

EMMA データベースサイト(アジアリージョン)

<http://www.emmanet.com/value/?cmd=SGR®ion=3>

JCACA お問い合わせ受付 ※データベース登録完了までに時間がかかる場合もあります

<http://jcaca.or.jp/contactus>

純正コンポーネントを使用する場合は以下の金額で計算します。

OEM CD-チューナー €200

OEM リモートコントロール(追加) €50

OEM オーディオビデオユニット €500

OEM フロントスピーカー €250

OEM リアスピーカー €250

OEM センタースピーカー €250

OEM サブウーファー €250

OEM アンプ €500

OEM プロセッサユニット €300

価格制限クラスにおけるいくつかの例

・EMMA CD をヘッドユニットで再生する場合

ストレージデバイスはCD=ストレージなので総額にカウントされない

ヘッドユニット=ユーザーインターフェイス=総額にカウントされる

・①ストレージデバイス(信号はストレージデバイスからアンプに接続されている)を、②iPhone のアプリでコントロールしている。そして③“apple CarPlay”対応 OEM ヘッドユニットにて iPhone を操作している。

① ストレージデバイスはストレージなので総額にカウントされない

② iPhone=リモートコントロールではないがユーザーインターフェイスである=総額にカウントされる

③ CarPlay を使用した OEM ヘッドユニット=これはヘッドユニットでもなくユーザーインターフェイスでもない=iPhone のリモートコントロール=総額にカウントされる

5.12 カテゴリ/クラスの変更

コンペティションシーズン中にクラスまたはカテゴリを変更しようとするコンペティション参加者は、同じシーズン中に少なくとも 1 回は新しいクラスまたはカテゴリのコンペティションに参加し、国内ファイナルの招待資格を取得する必要があります。それ以前に取得したすべての資格は、クラス/カテゴリの変更によって失効します。国内ファイナル後にカテゴリまたはクラスを変更した場合、その参加者はインターナショナルファイナルへの出場資格を失います。コンペ参加者が適正資格で参加するのを保証することは、各国内団体の義務です。

コンペ参加者はシーズン中にジャッジチームに加入した場合、あるいはカーオーディオ産業で勤務し始めた場合、その参加者はもう EMMA C、E、S に参加することはできません。前述のカテゴリにすでに参加していた場合、それ以前に取得したすべての資格は当該の時点で失効します。

5.13 SQ 審査について

サウンドクオリティの審査は、1 ないし 2 名のサウンドジャッジが公式 EMMA サウンドクオリティレコーディングを実際に再生して行います。ジャッジは特別な訓練を受けて資格を取得しており、EMMA サウンドクオリティレコーディング、EMMA サウンドクオリティルール、スコアシートをツールとして利用し、ステレオシステムやマルチメディアシステムのサウンド性能を評価します。

サウンドクオリティの審査後、コンペ参加者は車両にインストールしたサウンドシステムの音響性能について専門家による詳細で客観的な情報をフィードバックとして得ることができます。EMMA は、サウンドクオリティの部分をわかりやすく項目別に分けており、審査と評価はそれに基づいて行います。ジャッジがコンペ参加者に対して「あなたの車

のサウンドは良い/悪い、あるいはあなたは何ポイント獲得した」などと発言することはありません。ジャッジは評価とスコアシートを使って、関連するすべての詳細な項目についてサウンドがどうであったかを正確に説明します。

つけられたスコアはコンペ参加者にとって理解しやすいものであり、必要ならば EMMA ルールブックを見て容易に理解できます。さらにコンペ参加者は自身のサウンドシステムの可能性についても学ぶことができます。それによってコンペ参加者、ディーラー、友人は、サウンドシステムを改善することができます。

5.14 シングルシート審査

全てのカテゴリを「シングルシート審査」します。これは、ジャッジが運転席に座って審査する事です。インターナショナルのコンペでは少なくとも2回審査され、2回目の審査までに30分以上の充電時間が与えられます。ローカルイベントでは教育を目的にジャッジが2人座って審査する事もあります。ステージングやイメージングは運転席側でスコアリングされますが、残りは平均化されます。セカンドジャッジが著しく音の妨げになっているとコンペ参加者が感じた場合、ヘッドジャッジに評価を正すように要求する事が出来ます。ユーロファイナルなどの国際イベントでは、コンペ参加者はそれ以前のイベントによってすでに資格を取得し、自身のシステムに関するフィードバック情報を得ているため、サウンド審査の結果についてコンペ参加者に説明を行うことはありません。説明を行うのは、技術的な機能不全(たとえばノイズ)だけです。コンペ参加者はセレモニーで全てのスコアシートのコピー、あるいは平均点を示したスコアシートを受け取ります。

5.15 サウンドクオリティ審査中の手順とルール

1. サウンドクオリティ審査では、車両は公道での使用時と同様に「運転できる状態」でなければならず、ウィンドスクリーン/ウィンドウカバー、カーテンなどは使用が認められません。
2. サウンドジャッジが聴取するボリュームは、コンペ参加者が提案します。ただし高過ぎるレベルのボリュームからジャッジを守るため、ピンクノイズ(アンウェイトスロー測定)は 93dB を上回ってはいけません。
3. コンペ参加者は、審査開始前に、システムの具体的な操作方法について審査員に説明することができます。
4. テストおよび採点中は、審査員は車両の前席に正面を向いて着席しなければなりません。これはリムジンを含むすべての車両に適用されます。
5. マルチメディアクラス、ESPL Expert、X Unlimited を除くすべての参加車両は、純正部品番号のフロントシートを装着していなければなりません。審査員が 1 名のみ場合は、運転席に着席する必要があります。
6. 審査中は、窓、トランク、サンルーフを閉めてください。コンバーチブルは、ルーフと窓を閉めた状態で審査します。
7. 審査員は、競技者に許可なくシートの位置を調整することはできません。
8. 審査員は、審査中に座席の位置を変更することはできません。
9. 音質審査中にエアコンまたは暖房システムを使用できるように、エンジンを始動させるかどうかは、ヘッドジャッジの判断によります。エンジン始動が許可される場合は、審査員はリスニング中に車の換気ファンを静かな設定に調整する必要があります。
10. 審査に先立ち、競技者への説明会において、ヘッドジャッジは、エンジン始動時または停止時のどちらで音質審査を行うかを審査員と競技者に通知します。すべての車両は、一貫した方法で審査されなければなりません。ヘッドジャッジは、やむを得ない事情(極めて大きなエンジン音など)に基づいて例外を設けることができます。
11. ジャッジは、サウンド性能に影響を及ぼす可能性がある行為は避けなければなりません(たとえば帽子/野球帽を着用しない、ガムを噛まない、携帯電話の電源を切る、採点ボードをどのように持つかに気を配る、など)。
12. (コンペティション当日の)担当ジャッジは、イベント中にコンペティション車両を調整してはなりません(自らもコンペティションに参加している場合の自身の車両は除く)。
13. ジャッジは自身が持った印象を確認するため、EMMA の公式審査用メディアの「追加トラック」を利用することができます。審査は予定通りのトラックで行います。
14. ジャッジは視覚的な印象(たとえば、目立つスピーカー位置、あるいはその欠如)によって審査を左右させてはなりません。サウンドクオリティのジャッジは、車両内の装置に対し「盲目」でなければなりません。
15. 可能または必要な場合、サウンドクオリティのジャッジはスコアシートに記載したメモ/説明について採点を説明するよう求められることがあります。
16. SQ の審査中に装置の破損または車両の異常が発生した場合、コンペ参加者には異常を補正、修理するために 5 分間が与えられます。認められる修理作業は 1 回(5 分間が 1 回)だけです。トラブルが再発した場合には、

そのままの条件で採点を続けます。また異常/破損があった場合、ジャッジがそれをヘッドジャッジに伝えなければなりません。スコアシートには“リペアタイム有”と記入します。

6 審査マトリックス

サウンドクオリティのマトリックス							インストールのマトリックス				
		C	E	S	M	X		E	S	M	X
最大得点	ポイント	195	280	310	310	316	最大得点	69	115	161	325
サウンドステージまでの距離	15 ポイント	○	○	○	○	○	観客に対するプレゼンテーション	10	10	10	10
サウンドステージの幅	15 ポイント	○	○	○	○	○	観客に対するプレゼンテーション (BP)			5	5
サウンドステージの高さ	15 ポイント	○	○	○	○	○	クリーンさ	6	6	6	6
ルームインフォメーション	5 ポイント			○	○	○	システム/ワイヤリング図	4	4		
位置	25 ポイント		○	○	○	○	システムの文書			10	10
フォーカス	25 ポイント			○	○	○	審査員への説明			5	10
サブベース	30 ポイント	○	○	○	○	○	メインヒューズ	10	10	10	10
ミッドベース	30 ポイント	○	○	○	○	○	コンポーネントのヒューズ		15	15	15
ミッドレンジ	30 ポイント	○	○	○	○	○	電源ケーブルへの適切なヒューズ取付		20	20	20
高域	30 ポイント	○	○	○	○	○	室内配線の視認性		5	5	5
全体的なスペクトルバランス	30 ポイント	○	○	○	○	○	ケーブルの適切な末端処理			5	5
高ボリュームレベルでのスペクトルバランス	30 ポイント		○	○	○	○	ケーブル終端の適切な保護			10	10
リスニングの満足度	30 ポイント		○	○	○	○	損傷からのケーブルの保護			5	5
システムノイズ	-6 ポイント		○	○	○	○	コンポーネントの確実な取付	24	24	24	24
視界制限	-6 ポイント		○	○	○		スピーカーの保護	5	5	5	
システムの操作	6 ポイント					○	車両の通常使用への影響		6	6	
							インストールの視覚的第一印象	10	10	10	10
							クラフトマンシップ			10	50
							インテリアのデザイン				10
							トランクのデザイン				10
							車両全体のデザイン				10
							ボーナスポイント				100



JAPAN CAR AUDIO COMPETITION ASSOCIATION

